

## 第142回長崎大学経営協議会議事要録

1 日 時 令和6年1月22日（木）13時30分～15時15分

### 2 報告事項

#### (1) 第4期中期目標・中期計画の変更について

理事（総務担当）から、資料2に基づき、中期目標・中期計画【7-1-1】について、当初の想定以上に国際共著論文が増加したことに伴い、評価指標の上方修正を行うこと及び令和6年度における部局の収容定員の変更等を申請することについて報告があった。

なお、概ね以下のような意見があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

◎国際共著論文数を数値目標、評価指標としてしまうと、それに合わせるような活動になってしまわないか世界的に懸念されている。また、今回実績が上がった要因は、大学として何らかのサポート等を行った結果なのか伺いたい。

○数値目標を高く持つということは外部機関に対するアピールという面もある。また、感染症の研究やCOI-NEXTに「ながさきBLUEエコノミー」が採択されたことなど海洋総合研究においても、ASEAN地域等からの留学生を受け入れて、様々な研究をしていることから、国際共著論文が多くなっている。

○ご懸念の点は理解しているが、国際共著をするという活動そのものが研究のベースアップにつながると考えている。また、大学の支援としては、海洋未来イノベーション機構を水産学部、環境科学部、工学部の連携の場として、大学が主導的に設置しており、その成果が上がっていると考えている。

#### (2) 令和6年度国立大学法人運営費交付金等予定額の概要及び本学の内示状況について

理事（財務・施設担当）から、資料3に基づき、令和6年度国立大学法人運営費交付金等予定額の概要及び本学関係の概算要求に対する内示状況について報告があった。

#### (3) 令和5年度資金運用状況について

理事（財務・施設担当）から、資料4に基づき、長崎大学資金運用細則第13条の規定により令和5年度の資金運用の状況について報告があった。

また、長崎大学資金運用細則第15条の規定により、半期ごとの運用実績及び委員会の開催状況を公開することについて報告があった。

#### (4) アクションプランの策定について

学長から、資料5に基づき、新たに策定したアクションプランについて報告があった。

なお、概ね以下のような意見があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

◎「社会共創」の中に、遠隔診療のことが目標に取り上げられている。長崎は島嶼への社会貢献、さらには日本のモデル地域になりうると考えている。併せて、こうした取り組みを世論や行政に対して積極的にアピールしてほしいと考えている。

○島嶼SDGsを担当する教員とも協議しており、医療だけではなく、例えばごみ問題などに関しても、県や各地域の自治体が一つにまとまって対応していくような枠組みを新たに

立ち上げられないか、それをつなげいくような役割が大学にあるのではないかと考えている。

- ◎「国際」に関して、例えば商社でも海外駐在をしたくない人が多いという話も聞くが、学生の現状はどうか、またそれに対してどのような教育をしているのか、しようとしているのかお尋ねしたい。
- ◎今の学生が海外に出ていこうという意識は以前に比べると低くなっていると感じている。インバウンドの方はコロナ禍前に回復しているが、アウトバウンドについては十分ではないため、短期留学を経験し、中長期に留学してもらうなどの仕掛けを作っていければと考えている。
- ◎長崎大学と先進国との学生交流についてお聴きしたい。
- ◎中国、ASEAN 諸国との交流が多いが、先進国にもいくつか協定校があるので、そこを活用し、学生交流をもう少し活発にやっていきたい。
- ◎小中高の教育にも問題があると思うが、長崎大学には、国際会議などで意見が言えるような人材を育成していただきたい。
- ◎学内でも国際シンポジウムやワークショップなどを積極的に開いているため、学生も参加させて、発表や議論させるのは重要だと考える。
- ◎九州は TSMC でインバウンドの魅力ある地域として注目されているため、医学部以外の学部においても、県外の学生に入学してもらい、地域の活性化、地域への人材供給など進めていただきたい。
- ◎医療に関しては、予防や介護系が重要になってきており、長崎県は島嶼部が多いが、介護系の人材供給にも力を入れていただきたい。また、都市部の急性期病院では看護師が多く辞めている。長崎大学には保健学科があるため、他に比べるとよいかもしいが、対策をどのようにとられているか伺いたい。
- ◎介護に関しては、未来医療人材養成拠点形成事業で、包括連携教育システムを立ち上げており、多職種連携を本学が進めていき、県内にも浸透していると思われる。
- ◎長崎県で育成できる看護師数と毎年必要な看護師数のバランスはマイナスになってきており、やはり市中病院などでは看護師が確保できておらず、医療需要の縮小によるものではなく、看護師数が不足することから病床を縮小せざるをえないという方向性も出てきている。
- ◎長崎県は農業や工業、商業といった専門的な、職業的なことを学ぶ高校を他県に比べると多く残している状況があり、進学数がやや低い要因の一つなのかと思われる。一方で、例えば高大連携事業等は、高校生のキャリア意識や進学へのモチベーションを高めているため、大学がどのような学びをするのか、どのようなことを目指しているのかについても、高校生に伝わるよう発信をしていただければ、長崎県内で活躍したいと考える学生が増えるのではないかと考える。
- ◎このアクションプランをどのようにモニターし、サポートしていくかが大変大事になるので、大学全体でしっかりと考えてほしい。
- ◎このアクションプランを進めていく上で、評価という面は非常に重要な部分だと考えるので、学長としてしっかりとガバナンスを持って進めたい。

- (5) 業者による架空請求等事件の終了について
- (6) 令和6年度長崎大学経営協議会の日程について

- (7) 最近の大学の主な動きについて（大学HP掲載トピックスのまとめ）  
上記(5)から(7)までの報告事項については、資料配付のみとした。

### 3 協議事項

- (1) 学長による学部視察報告について  
本協議事項については次回協議することとなった。

### 4 その他

- (1) 次回の経営協議会の開催予定について  
議長から、次回は令和6年3月22日開催予定である旨説明があった。

(以上)